

海外教育旅行課題解決 セミナー

主催:

日本旅行業協会
アウトバウンド促進協議会
教育旅行部会

JATA海外教育旅行セミナー

海外修学旅行の現状と将来性 異文化理解の第一歩として

2025年9月3日

**東洋大学国際観光学部客員教授
(一社)日本旅行業協会アドバイザー
越智良典**



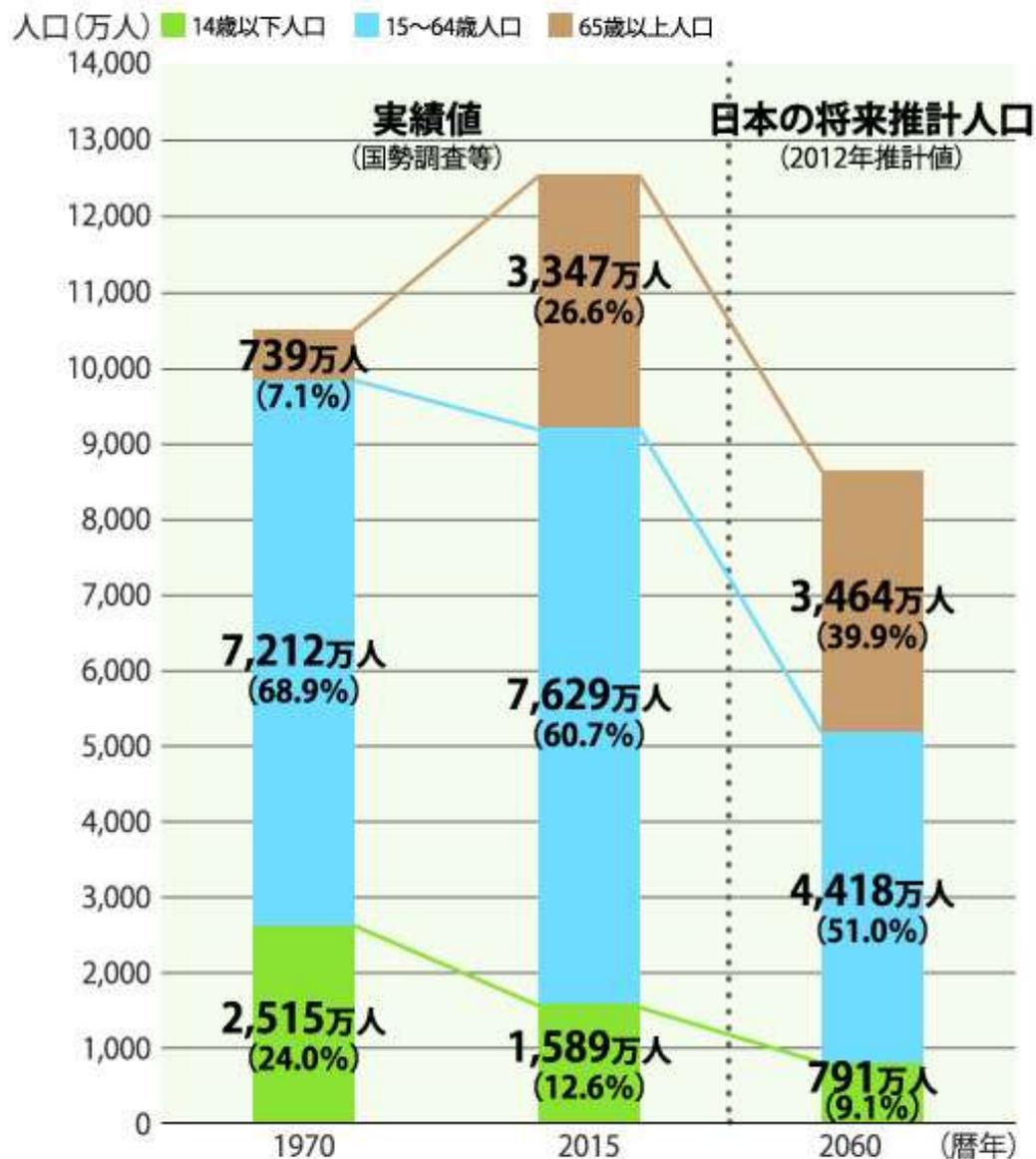
経歴

- ・**1975年 早稲田大学政経学部卒、近畿日本ツーリスト(株)入社**
海外旅行団体営業（60ヶ国）海外視察団、政経文化ミッション
- ・**2001年海外旅行部長、常務取締役、専務取締役（グローバル事業）、2011年（株）ユナイテッドツアーズ社長**
- ・**2013年6月（一社）日本旅行業協会（JATA）理事・事務局長**
（ツーリズムEXPOジャパン創設、国際交流事業）
- ・**2020年 東洋大学国際観光学部教授、JATA参与（コロナ対策）、**
2023年～東洋大学国際観光学部客員教授、JATAアドバイザー
（公財）全国修学旅行研究協会評議員

前半：翻訳ツールが発達した現在、 海外へ行く意味があるのか？

1. **初めに 日本の課題 少子高齢化**
2. **企業が求める異文化理解力**
3. **インバウンドもグローバル事業**
4. **大学のグローバル教育**
5. **中学高校での異文化理解教育**

「少子高齢化」→グローバル市場の需要獲得

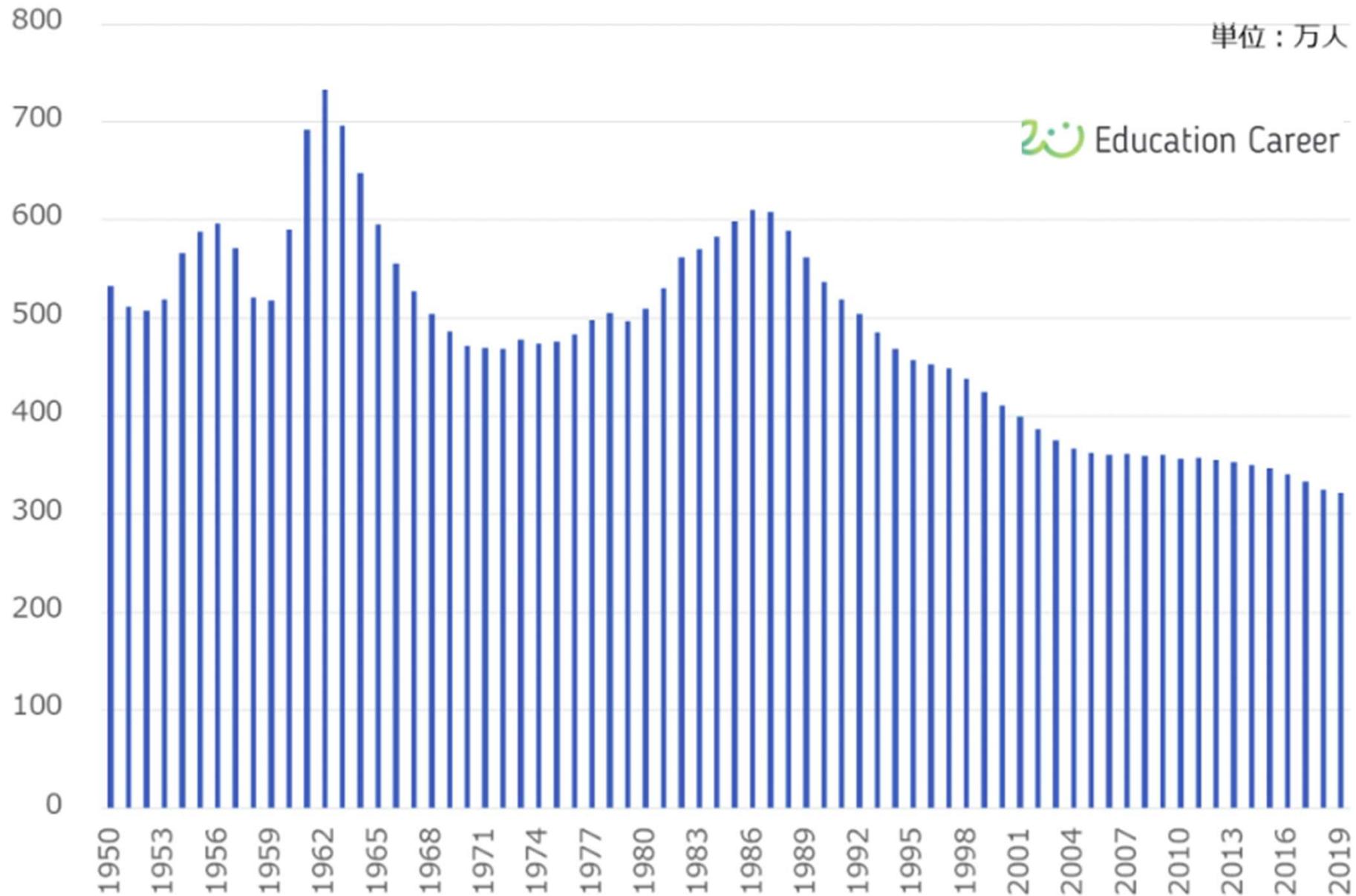


海外市場に
展開

国内での海外
市場（インバ
ウンド）

(出典) 総務省「国勢調査」および「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所
「日本の将来推計人口(2012年1月推計):出生中位・死亡中位推計」
(各年10月1日現在人口)、厚生労働省「人口動態統計」

中学生数の推移240万人→100万人 グローバル社会の担い手になってもらう



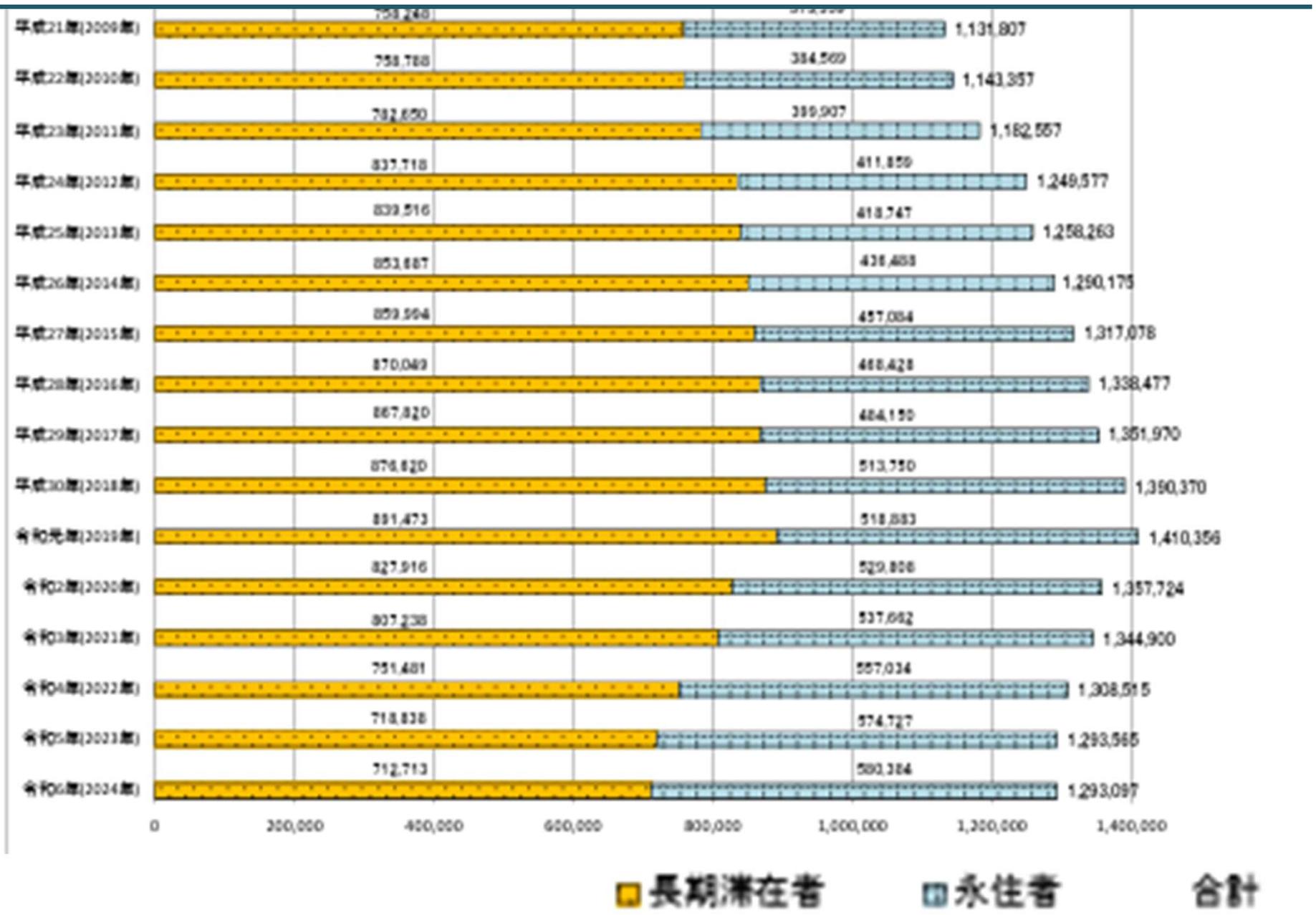
出典：Education Career

学校基本調査より

1. 初めに 日本の課題 少子高齢化
2. 企業が求める異文化理解力
3. インバウンドもグローバル事業
4. 大学のグローバル教育
5. 中学高校での異文化理解教育
6. 修学旅行、語学研修の現状
7. 海外修学旅行の伝える力
8. まとめ

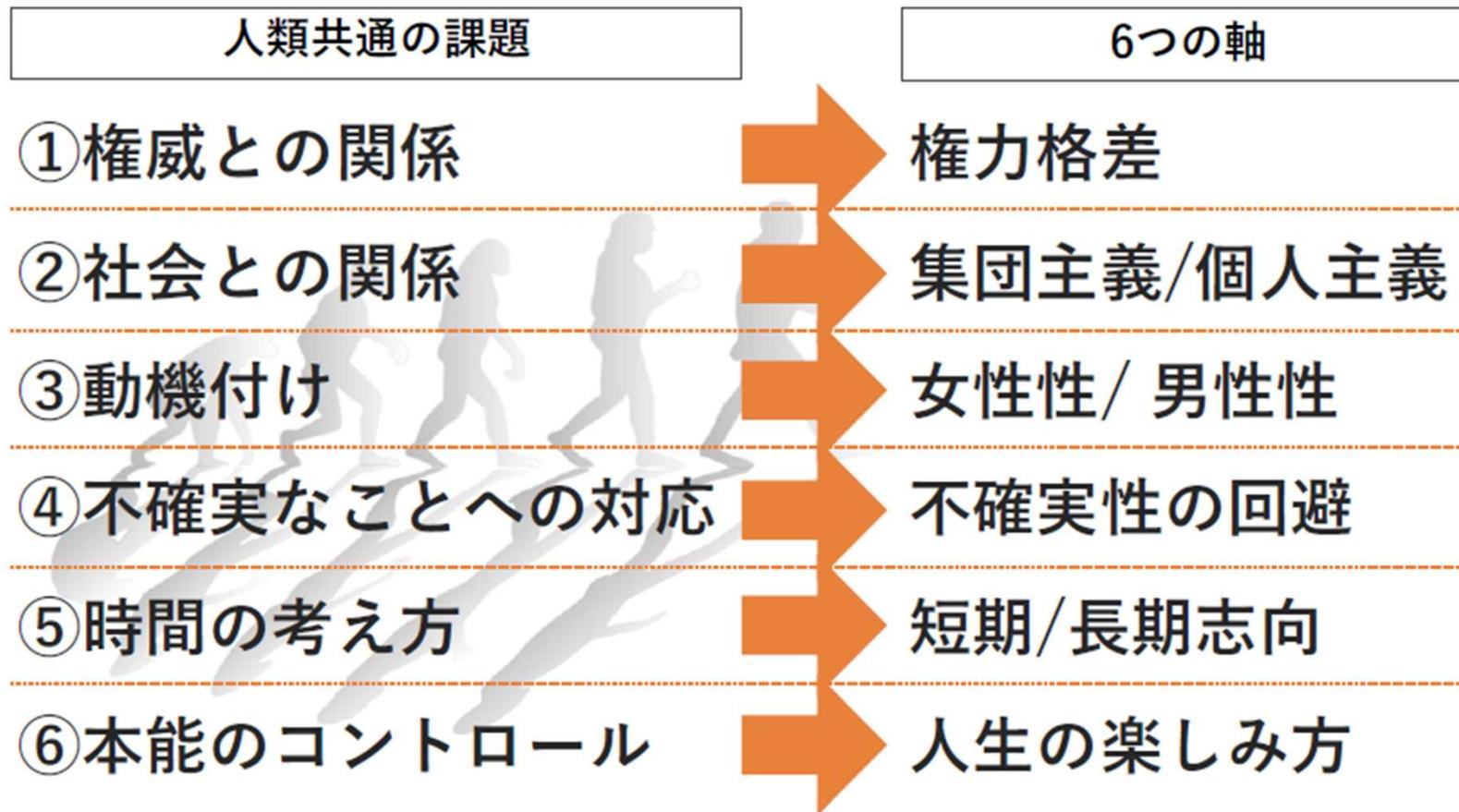
海外在留邦人数の推移（外務省）

駐在員数は減少、経営の現地化へ



グローバル経営の教科書： ホフステードの6次元モデル

人類共通の6つの課題を6つの軸として定義

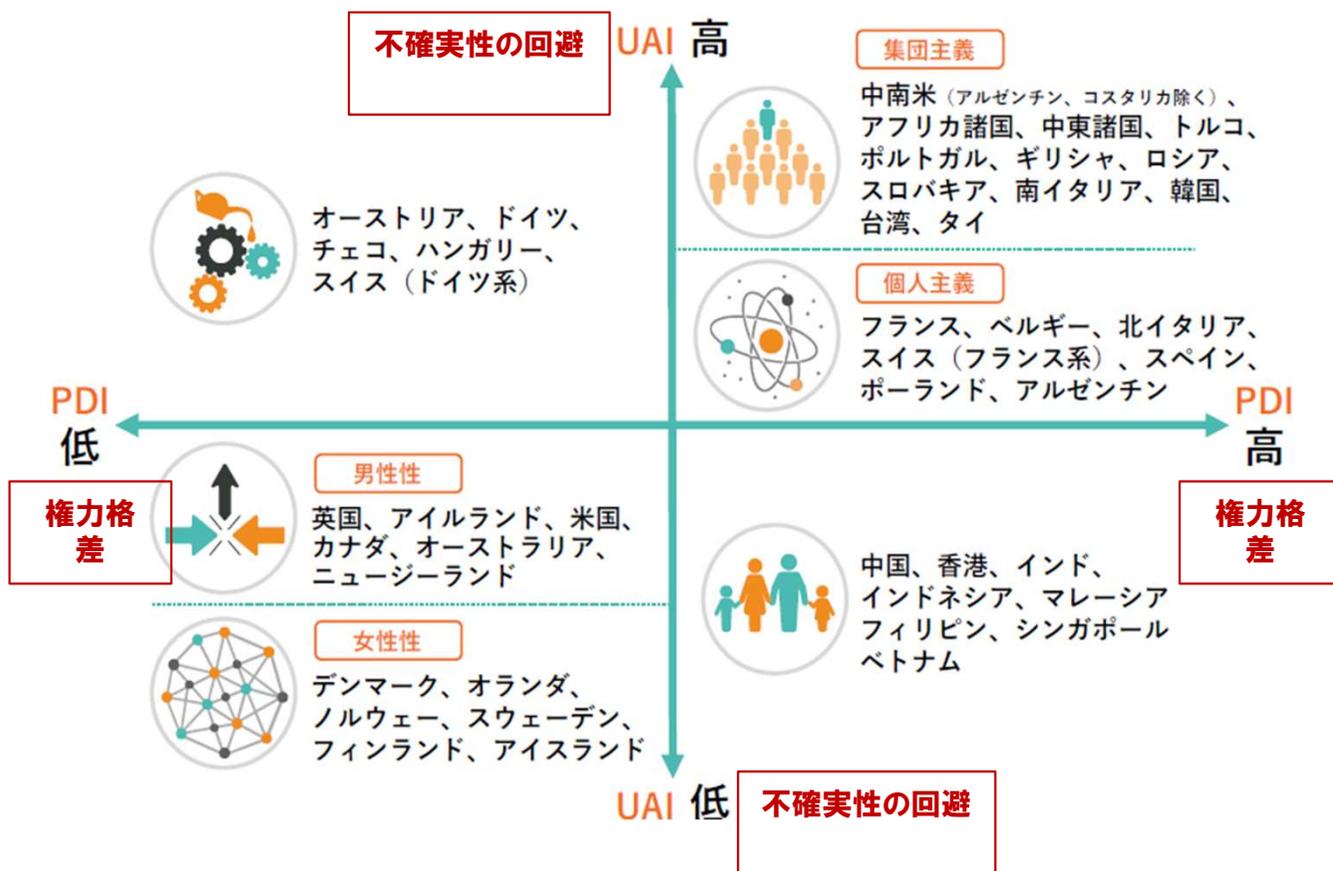


出典：「多文化社世界」違いを学び未来への道を探る G・ホフステード 有斐閣

世界の国々の文化を6つのグループに分類



次元の組み合わせで6つの文化圏に分ける



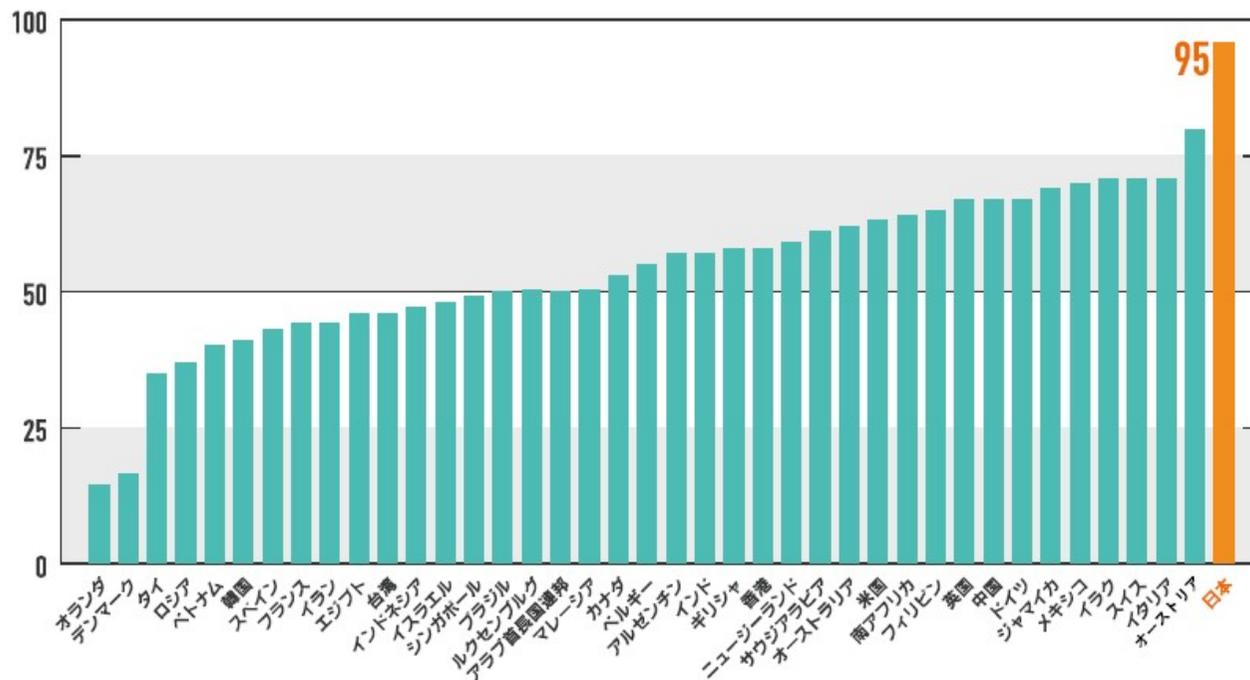
日本は
6つのグループに属さず
独自のポジション

文化の違いは魅力でもあり孤立のリスク

男性性/女性性 (Masculinity)

日本は男性性が非常に強い

「一つの道を極める」「完璧を求める」という志向が高い



女性性

男性性

「〇〇道」「モノづくり」
「おもてなし」「こだわり」

「男性性」の強さ 観光面では強み



〇〇道

モノづくり

おもてなし



寿司職人の技術

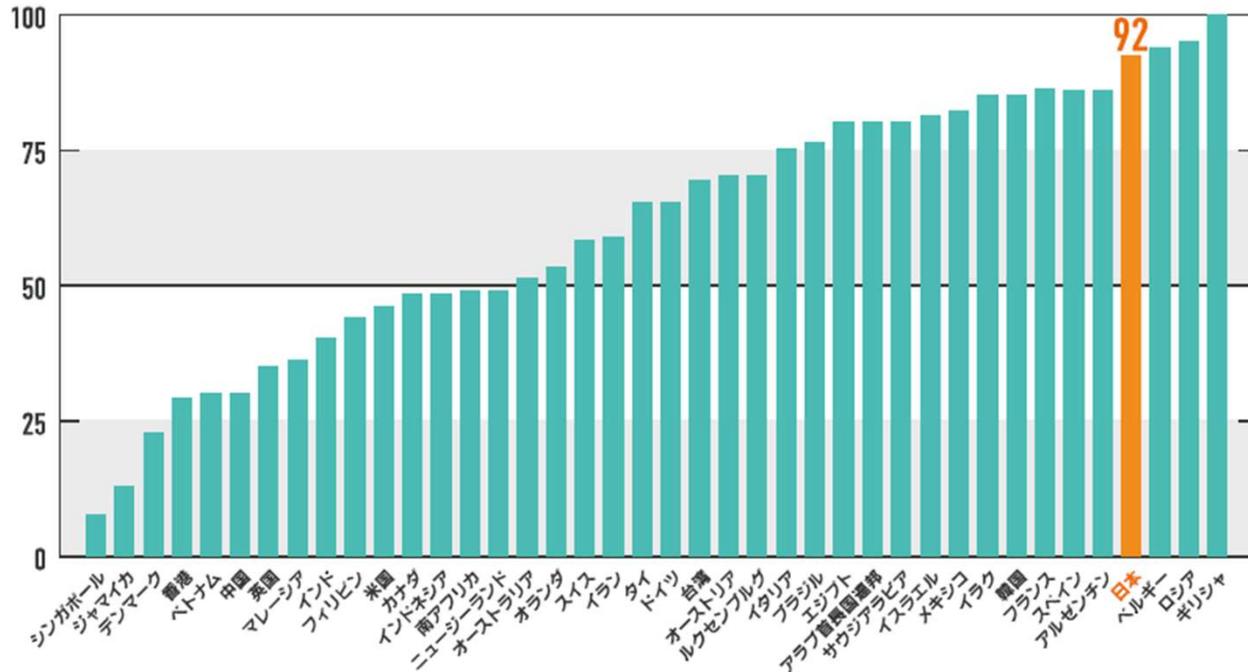


ウォシュレット



グッバイウェーブ

不確実性の回避 (Uncertainty Avoidance)



日本は不確実性を嫌う文化

「計画性が高い」「管理が緻密」
「改善活動(欠陥ゼロ)」



失敗をしないため

「ルールを守る」「暗黙のルール」
「オペレーションの緻密さ」

「不確実性の回避」低

「不確実性の回避」高

「不確実性の回避」の高さ→観光面では強み



京都・名古屋・東京 方面 for Kyoto, Nagoya, Tokyo			
のぞみ	214	8:09	東京
のぞみ	92	8:15	東京
のぞみ	216	8:24	東京
のぞみ	94	8:33	東京
のぞみ	298	8:39	東京



暗黙のル
ール

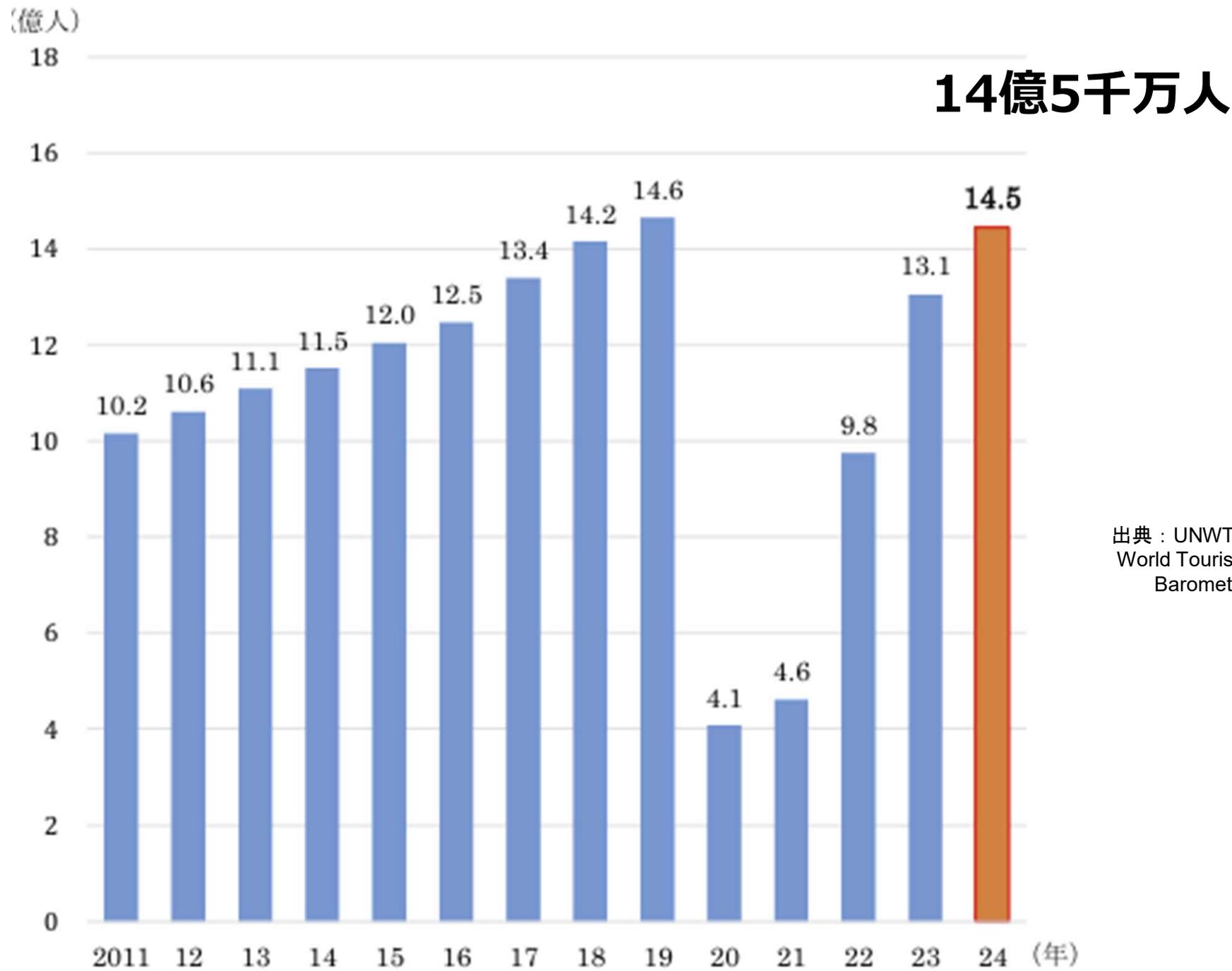
ルールを守る

オペレーションの緻
密さ

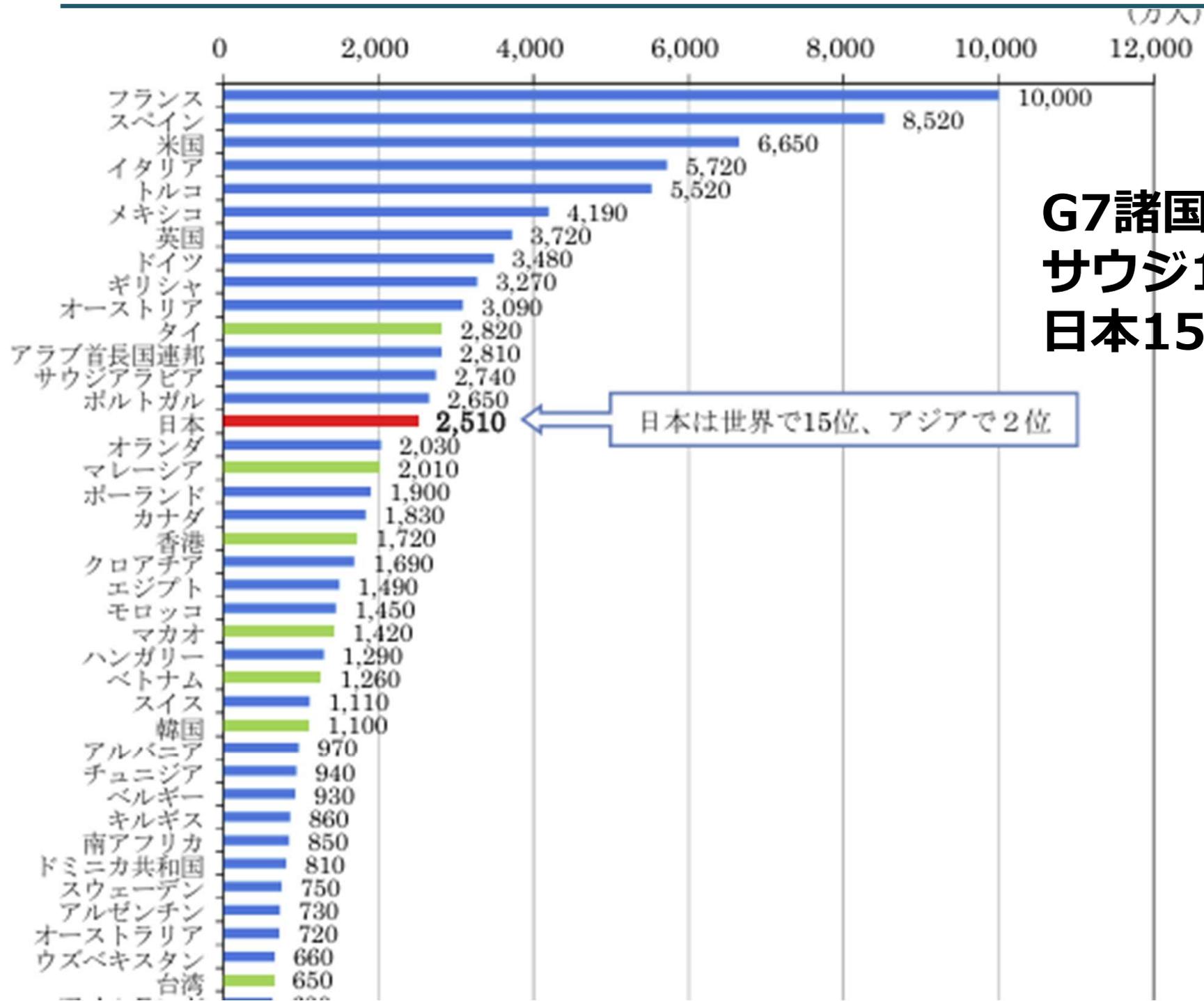


1. 初めに 日本の課題 少子高齢化
2. 企業が求める異文化理解力
3. インバウンドもグローバル事業
4. 大学のグローバル教育
5. 中学高校での異文化理解教育
6. 修学旅行、語学研修の現状
7. 海外修学旅行の伝える力
8. まとめ

国際観光は2024年に成長軌道に戻る



2023年国際観光客受け入れ人数ランキング



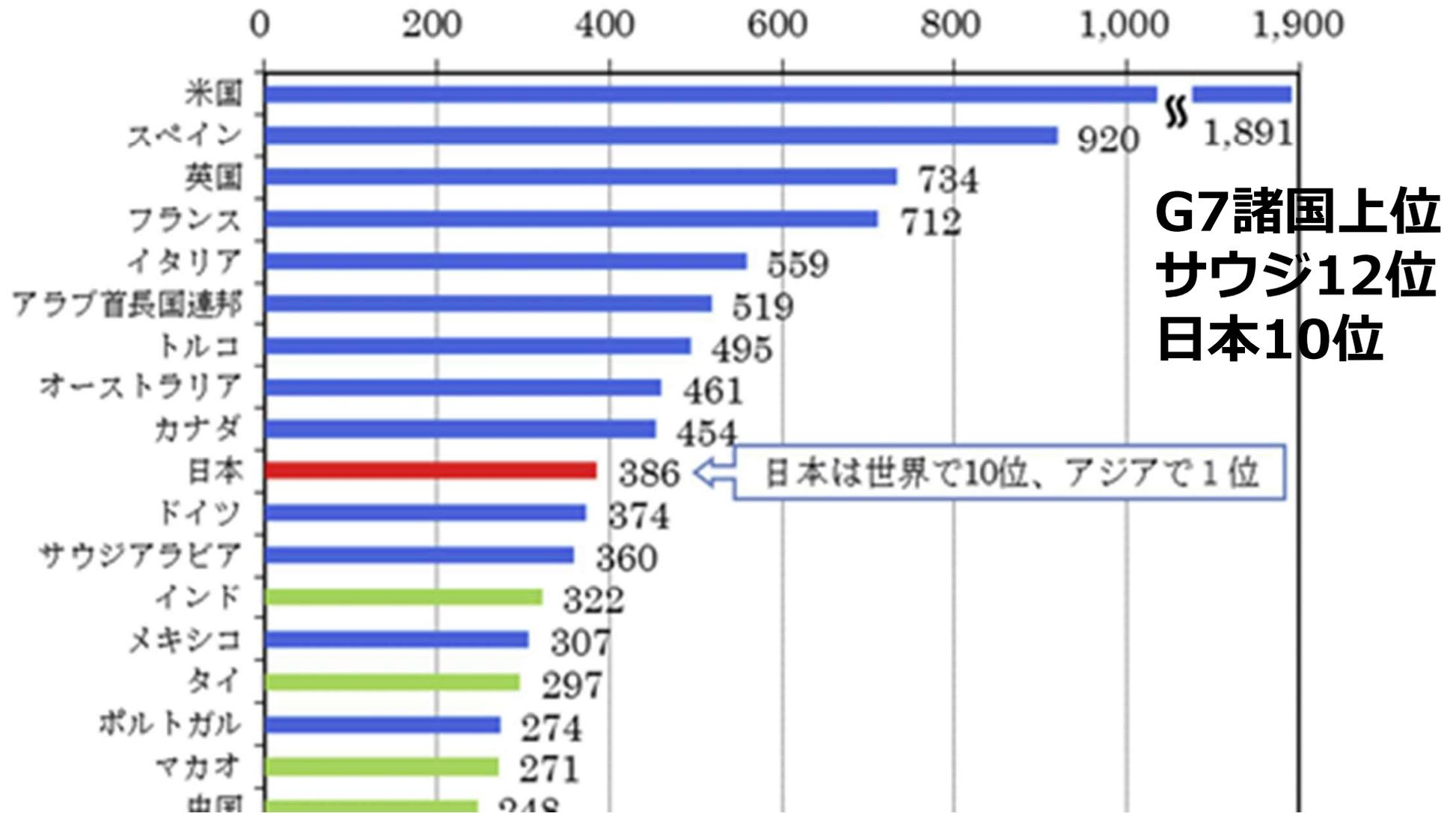
G7諸国上位
サウジ13位
日本15位

日本は世界で15位、アジアで2位

出典：国連世界観光機関 (UNWTO)

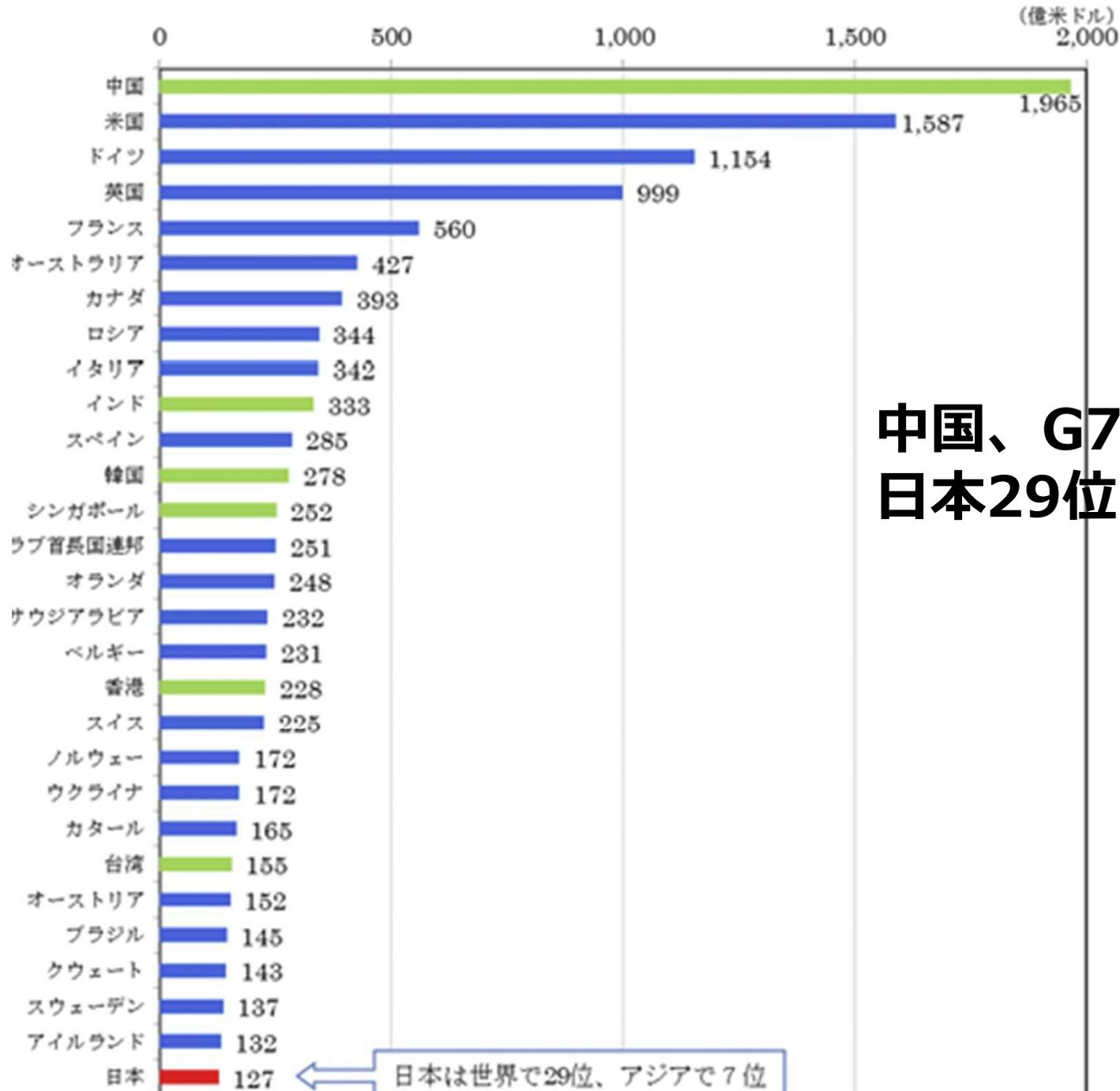
2023年国際観光客受け入れ収入ランキング

(億米ドル)



サウジ12位 出典:国連世界観光機関(UNWTO)

2023年国際観光客消費額ランキング

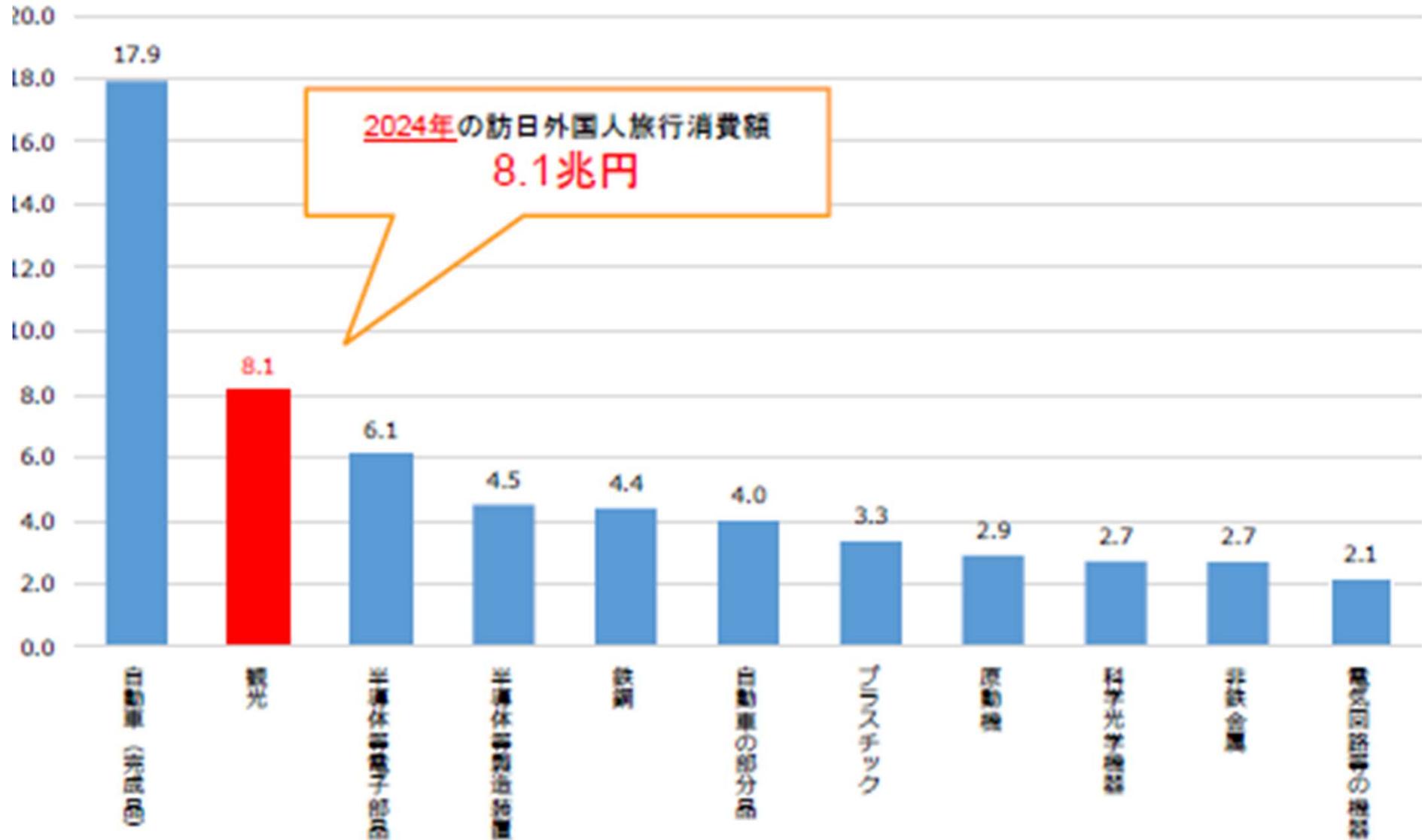


中国、G7諸国上位
日本29位

出典：国連世界観光機関 (UNWTO)

訪日外国人旅行消費額の製品別輸出額との比較

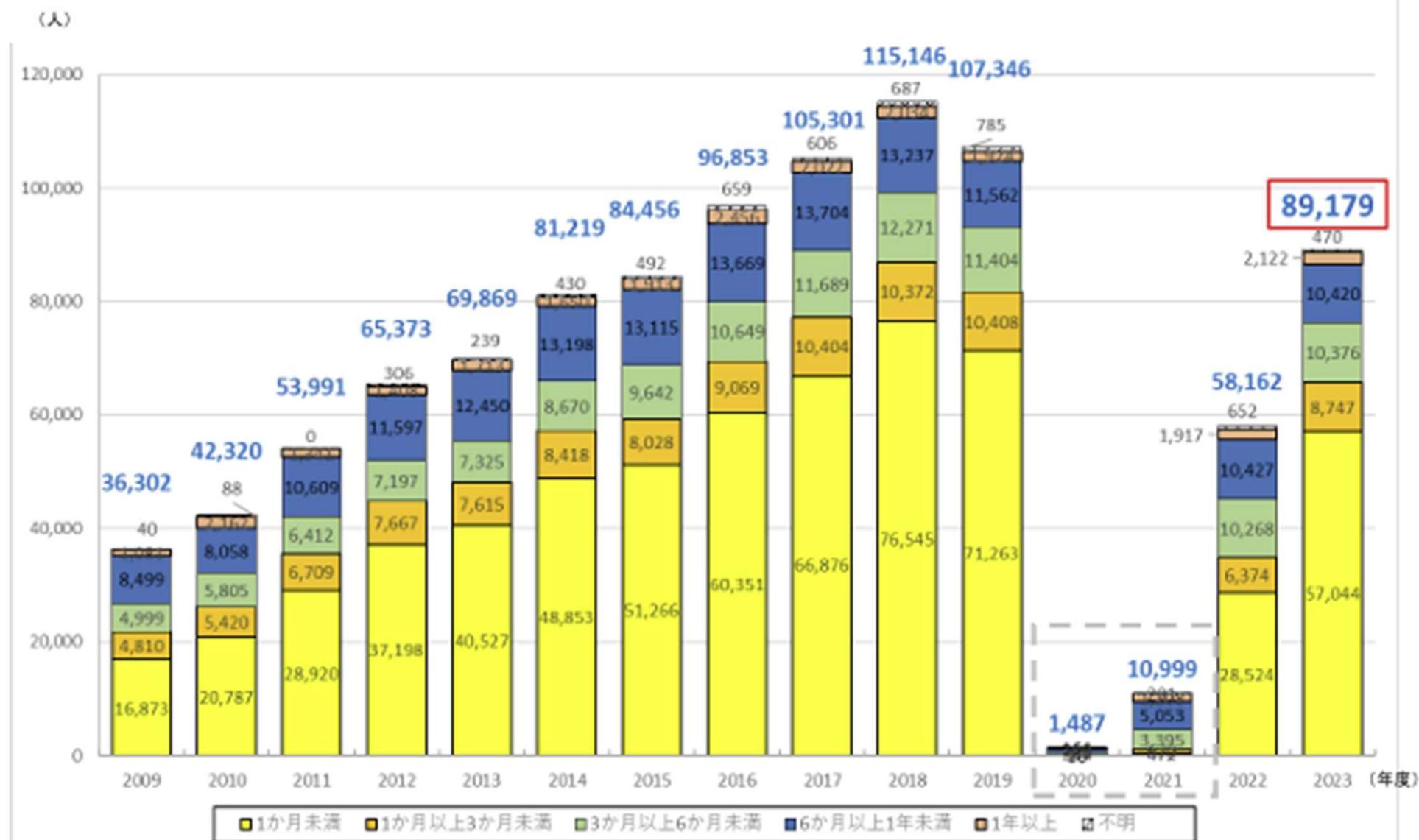
(単位：兆円)



資料：観光庁「外国人旅行消費額(訪日外国人旅行消費額)」(観光庁「観光統計」)、「貿易統計」(貿易統計)「輸出」(輸出)

1. 初めに 日本の課題 少子高齢化
2. 企業が求める異文化理解力
3. インバウンドもグローバル事業
4. **大学のグローバル教育**
5. 中学高校での異文化理解教育
6. 修学旅行、語学研修の現状
7. 海外修学旅行の伝える力
8. まとめ

日本人留学生の推移



(独) 日本学生支援機構実施の「日本人学生留学状況調査」

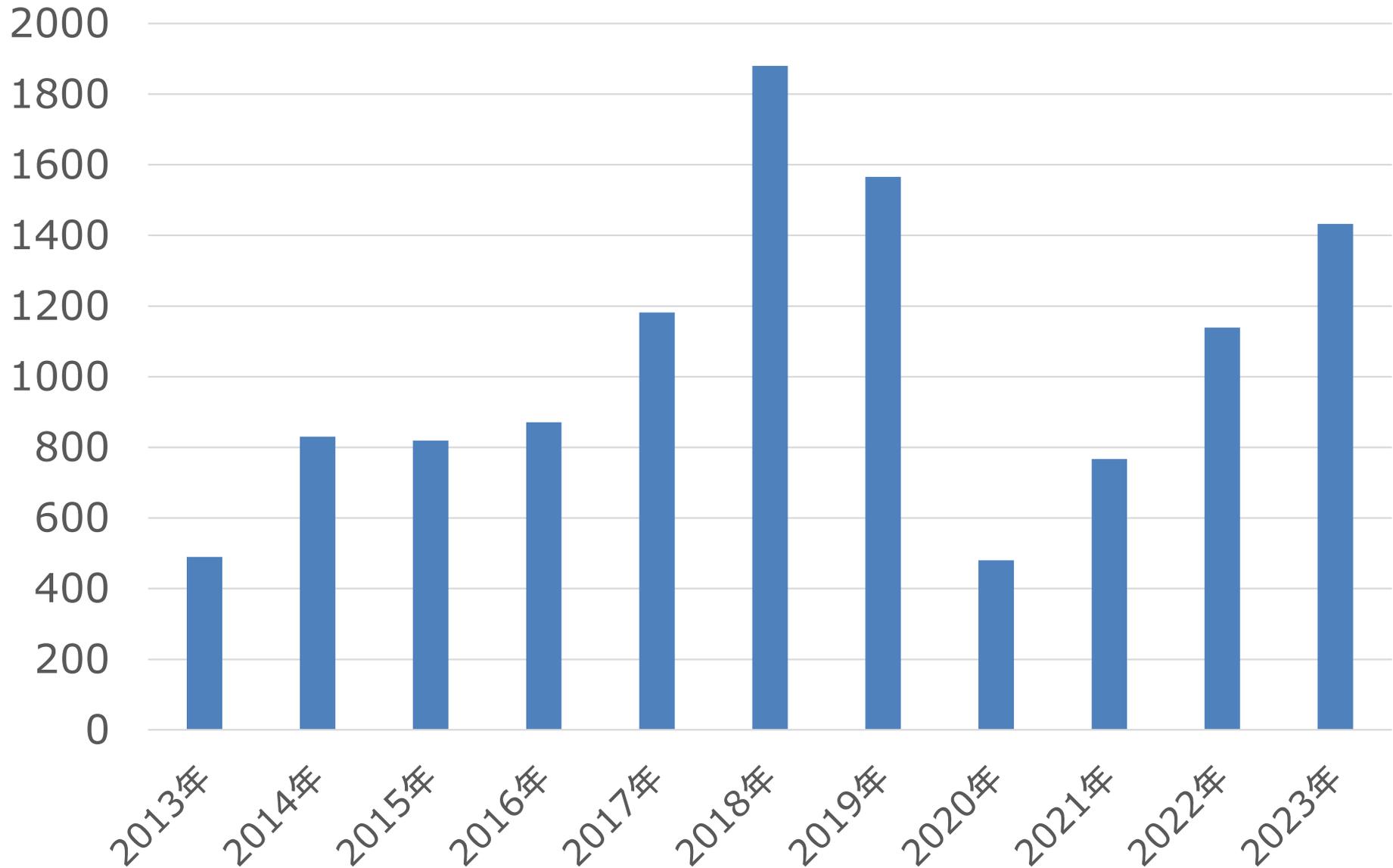
主な留学先

No.	国・地域	留学者数		前年度比増減	
		2023 年度	2022 年度	人数	増減率
1	アメリカ合衆国	13,517	11,880	1,637	13.8%
2	オーストラリア	9,163	6,187	2,976	48.1%
3	韓国	8,384	4,679	3,705	79.2%
4	カナダ	7,621	6,735	886	13.2%
5	台湾	5,048	1,793	3,255	181.5%
6	英国	5,037	3,425	1,612	47.1%
7	タイ	4,396	2,529	1,867	73.8%
8	フィリピン	3,200	1,620	1,580	97.5%
9	中国	3,133	417	2,716	651.3%
10	フランス	3,022	1,929	1,093	56.7%
-	その他	26,658	16,968	9,690	57.1%
	合計	89,179	58,162	31,017	53.3%

(独) 日本学生支援機構実施の「日本人学生留学状況調査」

T大学の留学生の推移（2013年から拡充）

グラフ タイトル



T大グローバル人材育成戦略 2013年から拡充

- ・目指すもの：**異文化環境・多文化共生社会で活躍する人材**
- ・必要な能力：語学力、価値創造力、課題解決力
- ・支援制度：語学力、成績で最大300万円補助⇒予算2億円
- ・対象プログラム：短期～長期留学、研修、交流イベントなど
- ・成果：単位取得留学生**年間2000人規模（トップ10）**
在校生31,000人（6%） 6割が女性
- ・上位表彰者の**就職先**：国土交通省、資生堂、大和証券、JAL、ANA、ANA X、ANA成田エアポートサービス、JTB、本田技研、みずほ証券、三菱UFJ、ヤマトグローバルロジスティクス、楽天、横川電機など
- ・留学支援制度が**親にアピール**（受験生増）
- ・留学の現状：費用高騰（1.7倍）でも根強い希望。移民対策でのビザ制限や情勢不安でアメリカ、カナダ、オーストラリアから他へシフト
- ・**「違いにびっくり それを楽しむ」**⇔排除の論理

出典：国際部取材により演者が作成

Global Leaderプログラムで表彰

活躍の例

- ・ライオン社でインバウンド向け商品開発とマーケティング
- ・JOCでユース世界大会の選手あっせん
- ・世界陸上の選手招聘手続きを担当

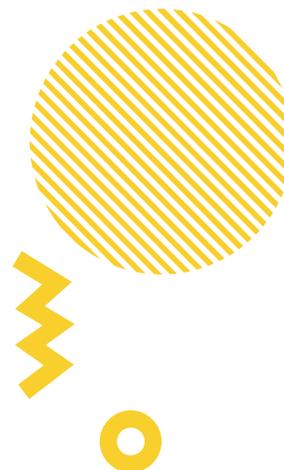
【認定要件】

英語能力

外国語による授業科目の修得

外国語による論文等執筆

海外留学・インターンシップ



在学中の計画シートを作成を指導

卒業後は
こんな自分に
なりたい！



- ・日本の一流ホテルで働きたい！
- ・外国人旅行者向けのツアーを考える仕事したい！
- ・とにかく海外に関わる仕事がしたい

在学中に
何をすべき？



- ・英語力をあげる
- ・外国の文化について知る
- ・日本についてもっと良く知る



	春学期	夏休み	秋学期	春休み
1年次 留学 語学	ココ今 コは		申込み(11月)	
2年次 留学 語学	長期留学(1学期目)			
3年次 留学 語学	長期留学(2学期目)			インターンシップ
4年次 留学 語学	就職活動 ~ 内定取得			

海外留学促進奨学金 (語学力により奨学金が決定)

語学力により
奨学金額が決定！

奨学金の出願期間

語学基準 (参加プログラムの学修言語のみ出願可能) (例) フランス語研修に参加 → 英語での出願は不可

語学基準	TOEIC®/TOEIC®(IP)	TOEFL ITP®	TOEFL iBT®	IELTS™	中国語 (HSK)	中国語検定試験
C2	—	—	—	8.5 - 9	5級	1級
C1	945 - 990	637 - 677	110 - 120	7.5 - 8	4級	準1級
B2-2	865 - 940	602 - 636	99 - 109	7	—	—
B2-1	790 - 860	567 - 601	87 - 98	6.5	3級	2級
B1-2	670 - 785	526 - 566	72 - 86	5.5 - 6	—	—
B1-1	550 - 665	485 - 525	57 - 71	5	2級	3級
A2-2b	500 - 545	470 - 484	52 - 56	4.5	1級	4級
A2-2a	400 - 495	459 - 469	—	4	—	—

受給額

語学基準	チャレンジ型	アクティブ型	グローバルリーダー型	トップ大学型
C2	300,000	500,000	1,500,000	3,000,000
C1	300,000	500,000	1,500,000	3,000,000
B2-2	300,000	500,000	1,500,000	3,000,000
B2-1	300,000	500,000	1,200,000	
B1-2	220,000	420,000		
B1-1	120,000	350,000		
A2-2b	70,000	250,000		
A2-2a	70,000			

※「グローバルリーダー型」「トップ大学型」については、留学期間が1学期間の場合は、受給額は上記金額の半額となります。

TOEIC 400点 ⇒ 7万円 TOEIC 550点 ⇒ 12万円

1. 初めに 日本の課題 少子高齢化
2. 企業が求める異文化理解力
3. インバウンドもグローバル事業
4. 大学のグローバル教育
5. 中学高校での異文化理解教育
6. 修学旅行、語学研修の現状
7. 海外修学旅行の伝える力
8. まとめ

中学高校での国際理解の教育活動

国際化の進展が加速する中、国際社会に生きているという広い視野を持ち、国を越えての人と人との相互理解・相互交流は基本となるものである

学習指導要領

中学高校での国際理解の教育活動

国際人育成へのプログラム

- **海外修学旅行** **一番大きな行事**
- **海外研修旅行**
 (語学研修、ホームステイ、親善交流等)
- **留学**
- **姉妹校提携**
- **外国人留学生受入れ**

港区の例から学ぶこと 上原校長へのヒアリング

親のグローバル教育の理解（93%）

→区長の政策：760名分3億9千万円の予算

・学校側：事前学習、ツアー中、事後学習を通じた国際理解プログラム

・先生方の理解：港区は配属先希望No1、部活指導員が区の予算で配置され、働き方改革が進んでいる

・学校側：事前学習、ツアー中、事後学習の徹底

・生徒の支持：不登校児童が登校する動機付けに旅費負担5万円＋諸経費2万円を目安

・旅行会社の役割：現地での国際理解を楽しく学べるメニュー

・受け入れ国：大使館との連携

⇒**住民（保護者）、自治体、学校、旅行会社、訪問国一体となった取り組み**

他からの実施問い合わせはない。

→観光庁と文科省で作れないか？教員のFAMの実施から

港区学び：多民族社会 多様性を認める文化

- ・ 中華系、マレー系、インド系、その他アジア系、ヨーロッパ系もいる多民族社会でそれぞれが独自の言語、文化、宗教をもっている。
- ・ 政府が多文化主義を支持し、民族間の共存と相互尊重を重視している。大統領選挙においても多い民族である、中華系、マレー系、インド系が交代で担う制度を入れている。
- ・ 日本の未来を担う子どもたちにとって、「将来どのような国にしていくか」と考えるうえで、とても参考になる国でした。
- ・ 今年はマレーシアから独立して60年、日本では戦後80年の年です。今回の海外修学旅行での経験により、子どもたちが大人になったときに平和な社会が少しでも広がってることを願います。

ホフステード博士の言葉

私は日本の友人に旅をすることをお薦めします。
旅はとても良い学びの機会です。まだ訪れたことのない
土地に行き、たくさんの質問を投げかけてください。
皆さんは正しく正確な質問をしようとして、一瞬躊躇してしまう
かもしれませんが、心配する必要はありません。
質問を投げかける行為そのものが、皆さんの“違い”に対する
意識を広げるきっかけになります。自分の中に湧いてきた質問
が多ければ多いほど、他者をより深く理解できるのです。

もっとも大切なのは、「自分たちが正しい」という思い込みを捨て
て、鳥瞰すること。相手の立場を思いやりながら、歩み寄ろう
とするマインドセットなのです。
違いを尊重しながら共存していく道を探りましょう

後半：

海外修学旅行は行われているのか？

どうアプローチすればいいか？

6. 修学旅行、語学研修の現状

7. 海外修学旅行の伝える力

8. まとめ

日本の修学旅行の歴史

- 1886年 長途遠足が起源（東京高等師範学校）
修学旅行の普及（遠足と地理・歴史の野外学習）
戦争による中断
- 1946年 各地で再開（米を持参して）
- 1955年 連絡フェリー紫雲丸事故
- 1958年 学習指導要領で学校行事（学校が計画し実施する
教育活動）と規定
教育的意義と安全な実施への配慮を指示
- 1954年 貸し切り臨時列車の運行
- 1959年 修学旅行専用列車「ひので」品川～京都 運航開始

教育活動

積み立て旅行（非日常）

親👉子👉孫

旅行文化と産業の形成

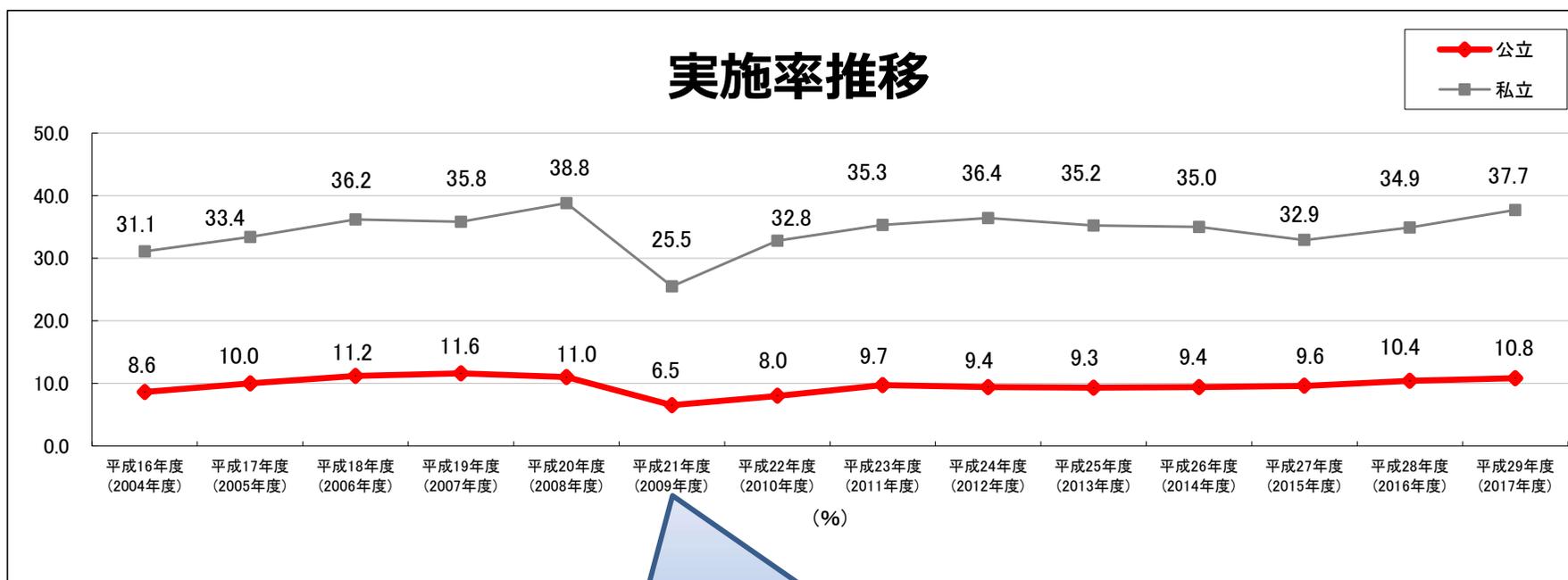
コロナ対策3月23日官邸ヒアリングでのJATA要望

- 経営継続支援の強化を。雇用調整助成金の助成率を東日本大震災と同様レベルに引き上げを。支給限度日数を200日へ。
- 観光業界による自主的な感染防止策を条件に、旅行・イベントの自粛要請の解除を！
- **修学旅行を中止するのではなく、延期しての実施と学校側にキャンセル料が生じる場合の財政支援を。→いち早く実現**
- 毎月1.5兆円の旅行需要の消失を取り返せるような大規模な需要回復キャンペーンの実施を。
- 国際交流を蘇らせるために出国時の検温、健康チェックなどの国際的な仕組みづくりを。

コロナ前：2018年の高校海外修学旅行 公立の1割、私立の約4割が実施、計約17万名

(校、件、人)

区分	実施校数	旅行件数	参加生徒数
公立	440	472	75,052
私立	522	792	93,829
合計	962	1,264	168,881



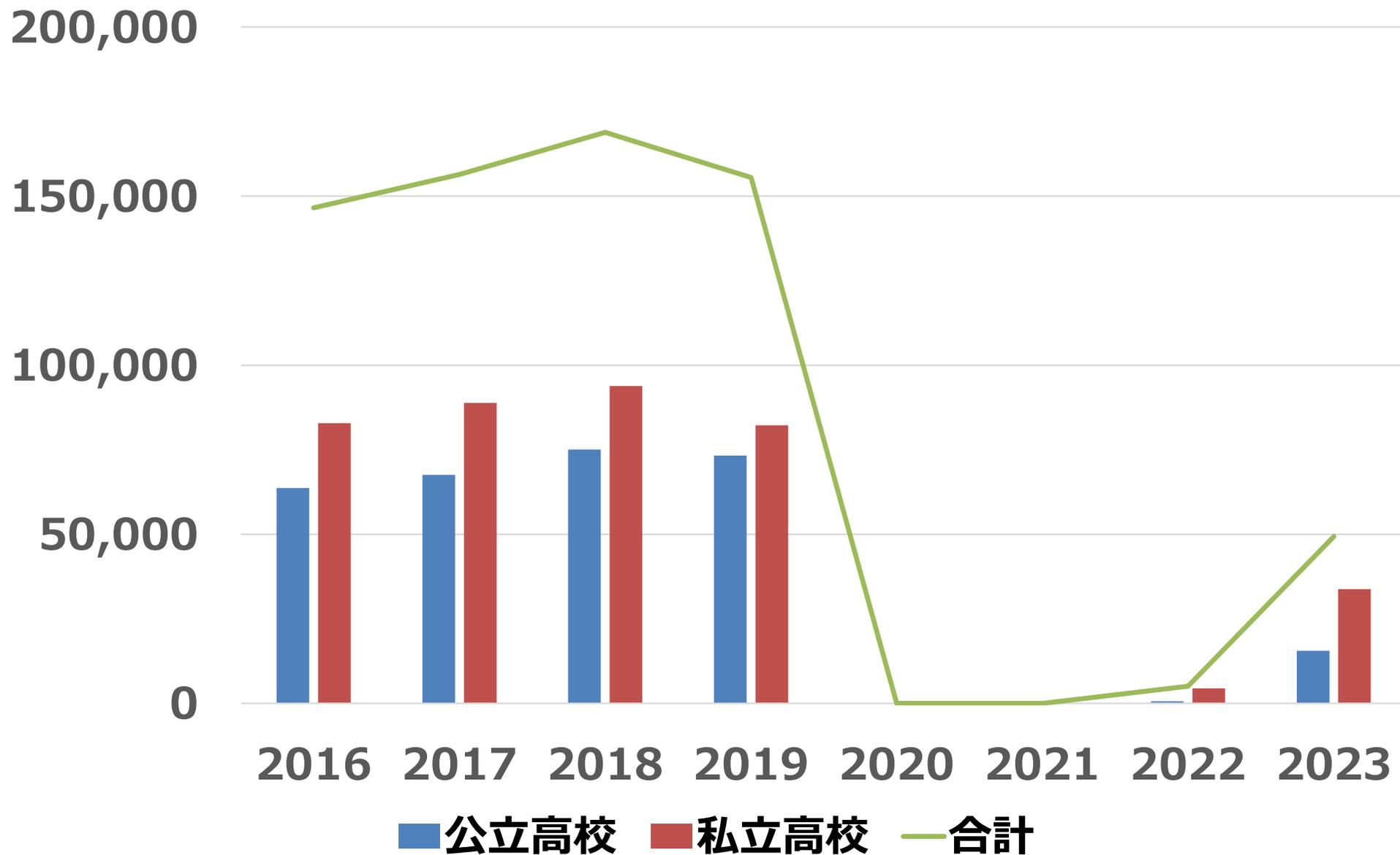
「新型インフルエンザ」の蔓延

禁無断転載・複写

出典：全国修学旅行研究協会調査

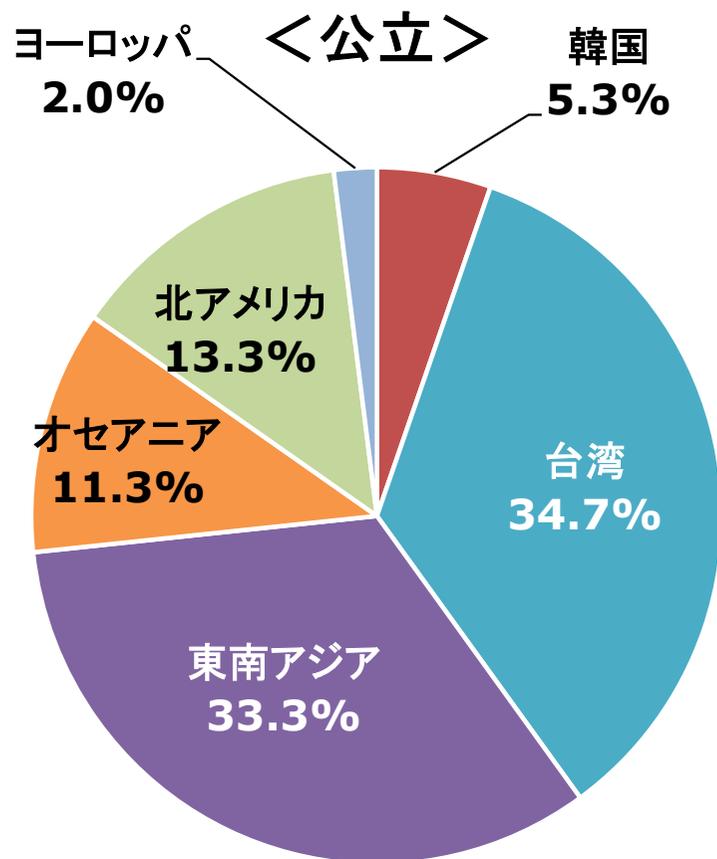
海外修学旅行人数推移

グラフ タイトル

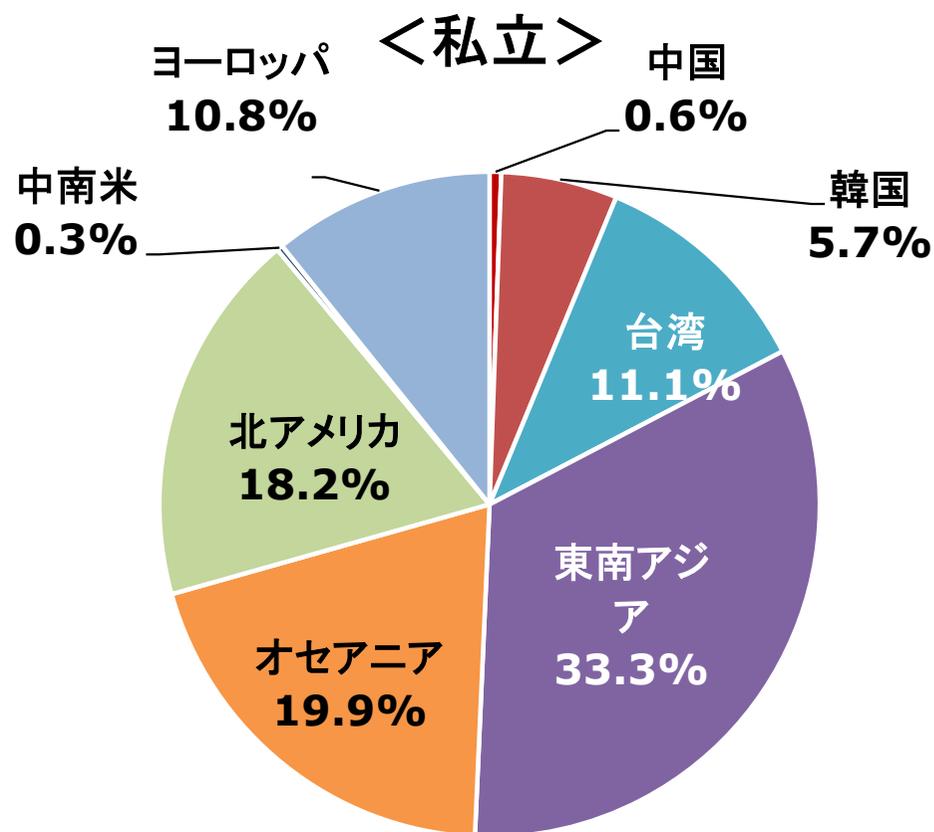


(公財) 全国修学旅行研究協会 資料より

2023年 訪問国別実施校実施方面



【 延べ17か国・地域 】



【 延べ37か国・地域 】

出典：全国修学旅行研究協会調査

訪問国上位10ヶ国・地域

公立			
国・地域	都道府県数	校数	人数
台湾	25	52	6,433
シンガポール	17	26	3,144
マレーシア	8	15	1,775
オーストラリア	10	15	1,562
ベトナム	6	6	1,217
グアム	6	6	813
韓国	7	8	552
ハワイ	5	6	480
アメリカ本土	2	4	176
カナダ	4	4	167

私立			
国・地域	都道府県数	校数	人数
オーストラリア	22	63	8,856
シンガポール	23	53	6,811
台湾	23	39	3,714
マレーシア	14	23	2,754
ハワイ	13	20	2,110
韓国	14	20	1,527
イギリス	9	12	1,520
アメリカ本土	12	21	1,390
ベトナム	8	13	1,372
グアム	10	12	1,272

出典：全国修学旅行研究協会調査

主要訪問国別旅行費用（平均額）

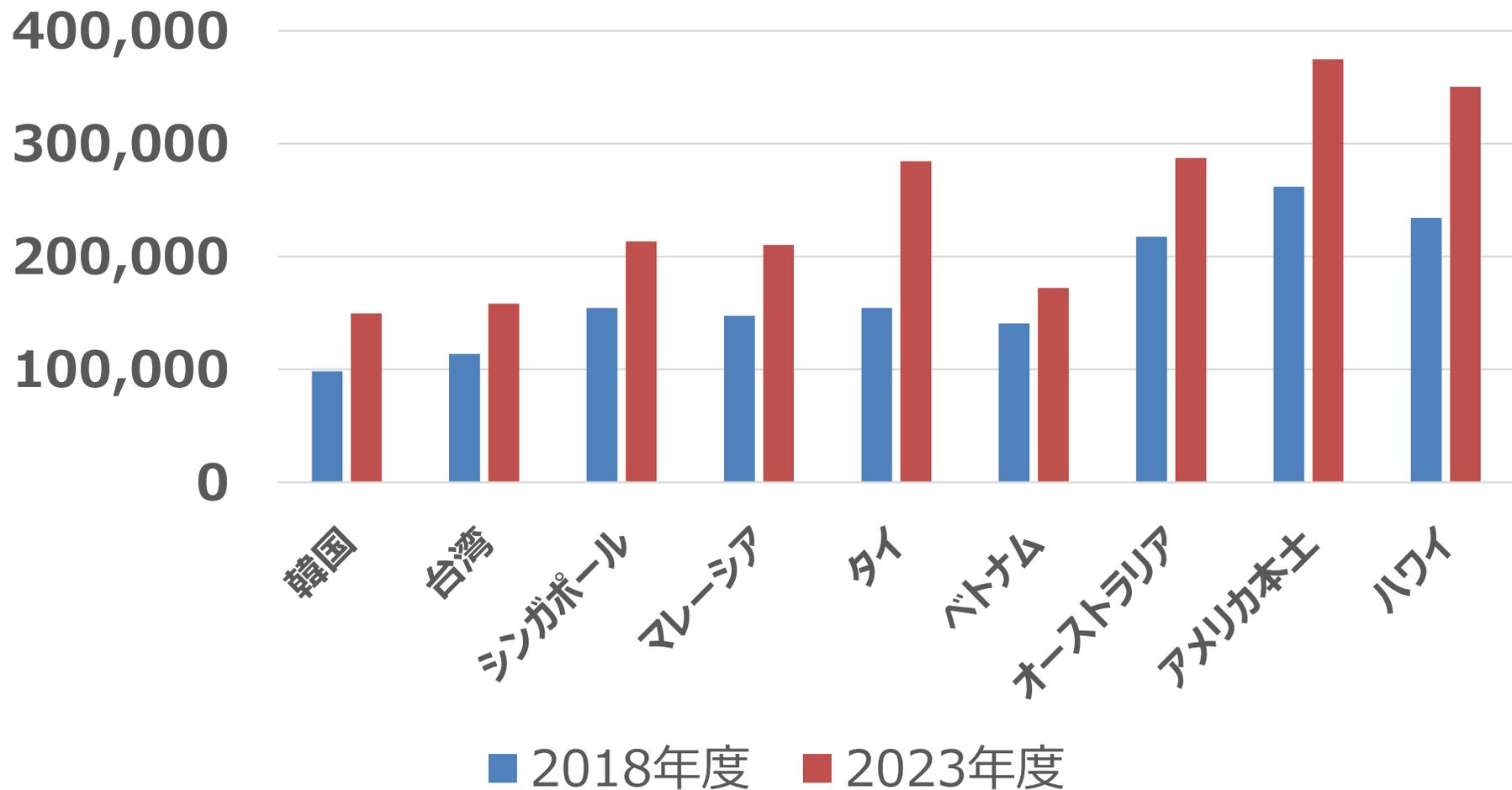
公立	韓国	台湾	シンガポール	マレーシア	ベトナム	オーストラリア	アメリカ本土	ハワイ	グアム
2023年度	149,562	158,360	213,395	210,240	172,104	287,246	374,634	350,212	191,299
2018年度	98,251	113,589	154,418	147,456	140,805	217,365	261,710	234,315	130,128
平均日数	4.3	4.5	5.2	5.2	4.9	5.0	7.1	5.3	4.5

私立	韓国	台湾	シンガポール	マレーシア	ベトナム	オーストラリア	アメリカ本土	ハワイ	イギリス
2023年度	159,002	173,130	267,856	279,887	274,292	396,312	473,663	384,838	507,620
2018年度	139,823	137,779	187,957	187,460	169,361	303,389	339,973	264,784	359,044
平均日数	4.6	4.4	5.1	5.9	5.6	8.1	7.6	6.3	8.8

出典：全国修学旅行研究協会調査

公立高校修学旅行訪問国別旅費比較 (平均額)

グラフ タイトル



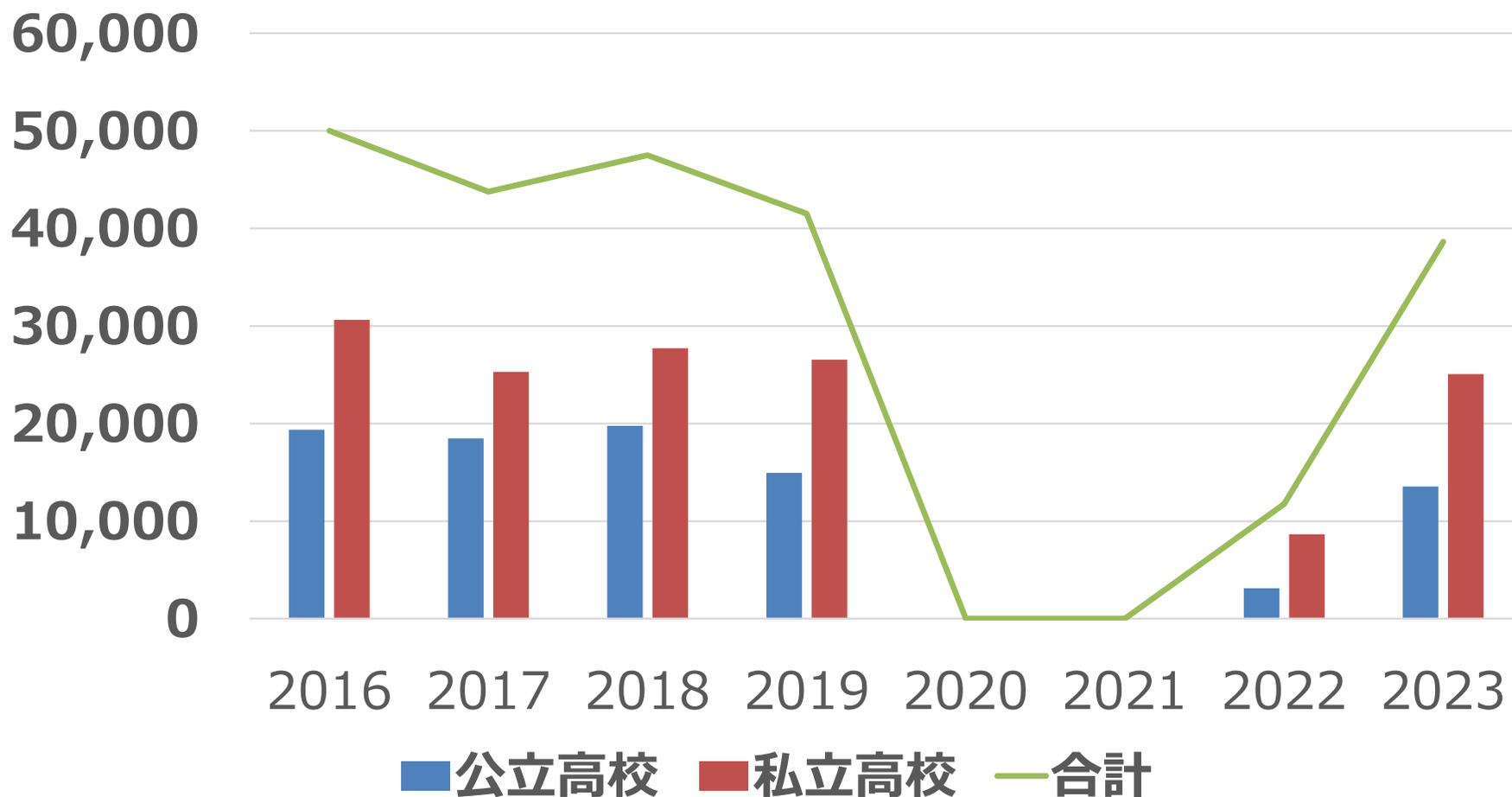
2023（令和5）年度の海外修学旅行の動き

- 昨年度（2022年度）の海外修学旅行一部再開から2年目にしてこの大きな前進は、学校教育における国際理解教育への意識の高さを表している。今後加速度的に増えていくものとする。
- 公立校は、受け入れ態勢が整った台湾を中心に動き出している。東南アジアではシンガポール、マレーシアに次いでベトナムが多い。経済成長著しい国から感じ取る熱量やベトナム戦争に関する平和学習、学びに旺盛な現地学生との交流などが体験できる訪問国として評判も高い。
- 私立校は、コロナ前とほぼ同様の国が上位を占めた。（オーストラリア、シンガポール、台湾）その中で、韓国の伸びが著しく、既にコロナ前を上回っている。
- 旅行費用面もあるが、文化体育観光部（日本の文化庁、観光庁、スポーツ庁に当たる）による日本の主要地域でのPR活動や、日本の中学校、高等学校教職員100人を韓国に招へいするなど学校間交流を促進していく政策を執っている。
- 旅行費用の高騰により、再開のタイミングを計らざる得ない海外修学旅行ではあるが、様々な工夫をもって間違いなく回復の方向に進むと考える。

出典：全国修学旅行研究協会

海外（修学外）人数推移 私学は回復

グラフ タイトル



(公財) 全国修学旅行研究協会 資料より

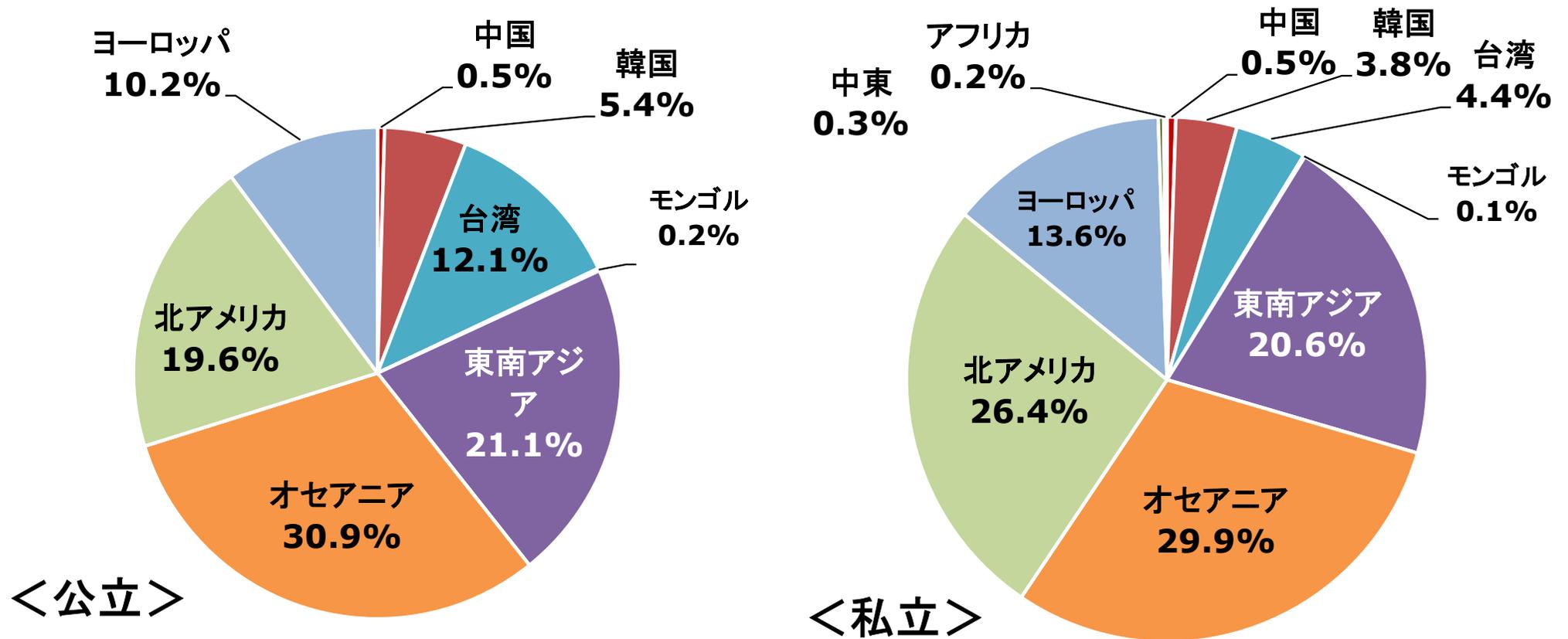
海外研修旅行（高等学校）

年度	計			公立			私立		
	実施校数	件数	参加生徒数	実施校数	件数	参加生徒数	実施校数	件数	参加生徒数
2023年度	1,022	1,683	38,628	521	644	13,556	501	1,039	25,072
2022年度	58	83	5,111	9	10	654	49	73	4,457
2018年度	1,537	2,509	47,477	837	1,140	19,761	700	1,369	27,716

※全国47都道府県で実施。

出典：全国修学旅行研究協会調査

研修先国別



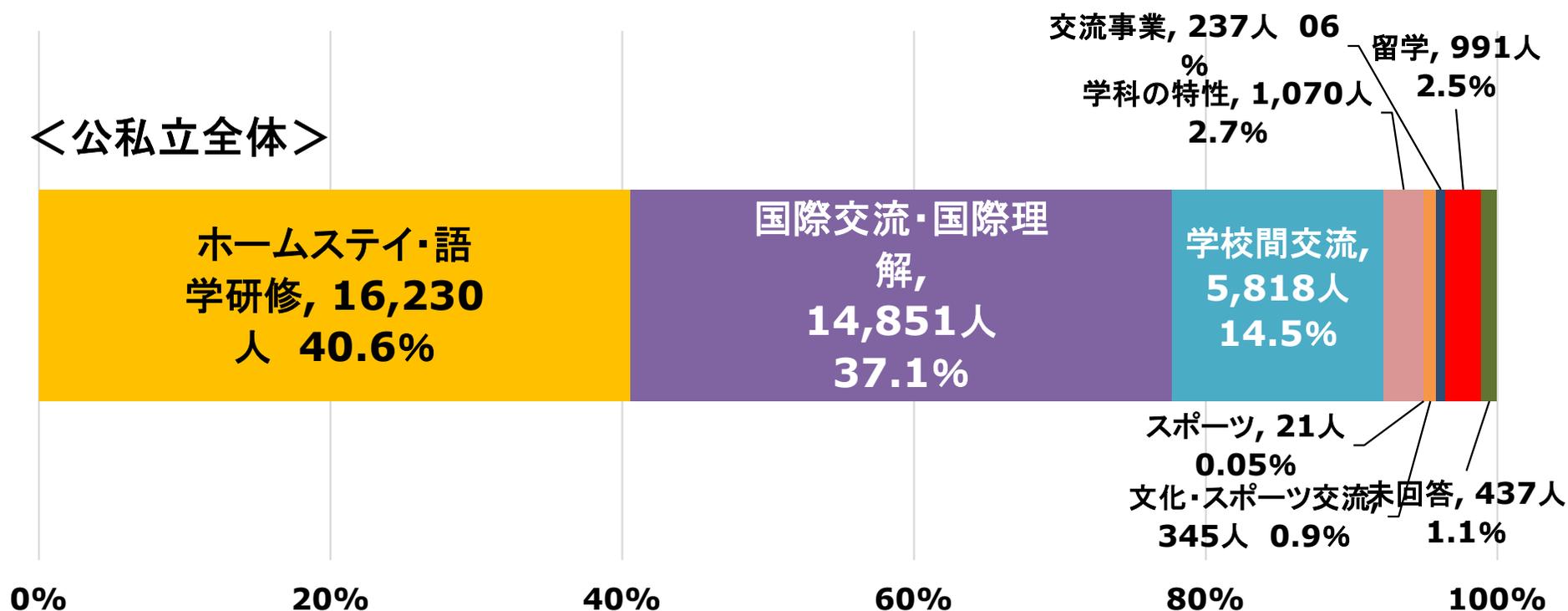
出典：全国修学旅行研究協会調査

研修先国上位10ヶ国・地域

公立				私立			
国・地域	都道府県数	校数	人数	国・地域	都道府県数	校数	人数
オーストラリア	35	172	4,548	オーストラリア	33	183	5,211
アメリカ本土	36	96	1,984	カナダ	29	104	3,181
台湾	27	78	1,329	アメリカ本土	31	107	3,003
シンガポール	16	33	1,260	イギリス	19	81	2,674
マレーシア	19	34	1,050	ハワイ	16	29	1,738
ニュージーランド	14	27	927	シンガポール	20	36	1,356
イギリス	15	27	601	ニュージーランド	25	91	1,315
韓国	17	35	494	台湾	18	41	1,177
カナダ	12	14	421	フィリピン	22	64	1,146
フィリピン	12	23	254	韓国	19	35	1,008

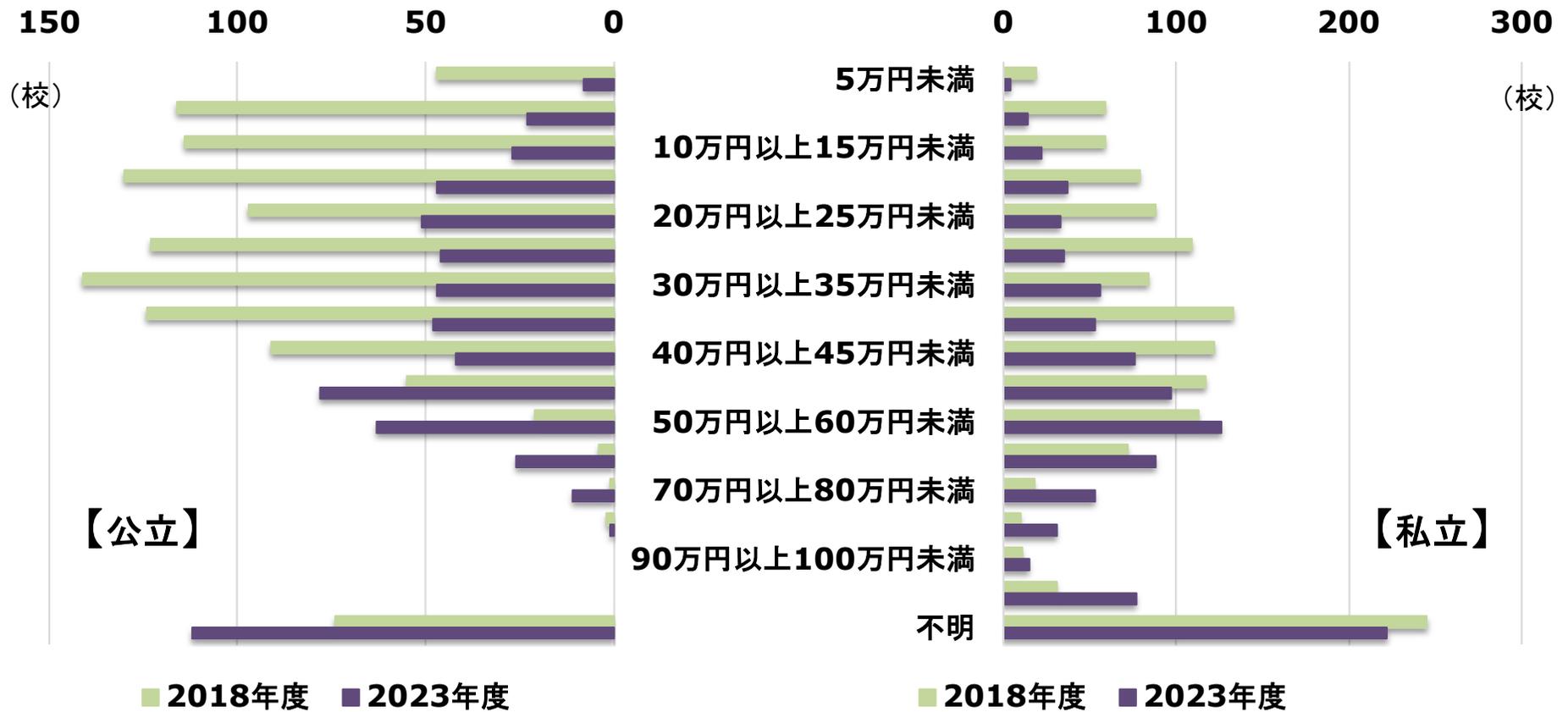
出典：全国修学旅行研究協会調査

研修内容別構成（生徒数） ※延べ数



出典：全国修学旅行研究協会調査

旅行費用



出典：全国修学旅行研究協会調査

1. **初めに 日本の課題 少子高齢化**
2. **企業が求める異文化理解力**
3. **インバウンドもグローバル事業**
4. **大学のグローバル教育**
5. **中学高校での異文化理解教育**
6. **修学旅行、語学研修の現状**
7. **海外修学旅行の伝える力**
8. **まとめ**

烏山頭ダム八田技師記念公園 2011年開設を機に修学旅行の素材へ



大実業家許文龍氏の言葉



許文龍

奇美実業集団を創設、ABS樹脂生産世界一となる。李登輝総統の国策顧問。2004年引退。台南の奇美博物館は私立として台湾最大。

2011年、台南の自宅を訪問。マンドリンで荒城の月を奏で、自ら釣った魚をふるまわれる。

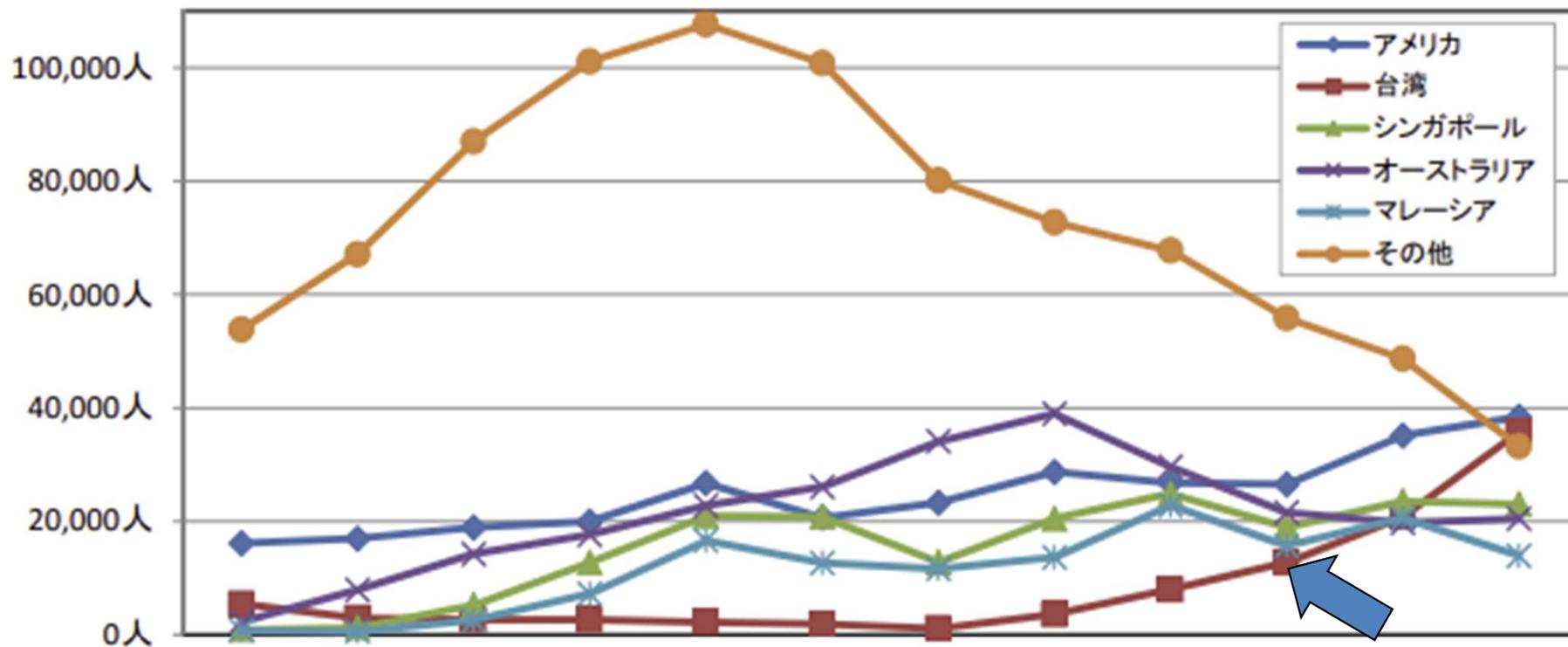
「日本の先人が台湾の国づくりにどれほど貢献してくれたか。私は自分の手で銅像をつくり、寄贈してきた。八田與一、新渡戸稻造など10体以上。

あなたは修学旅行や旅行を通じて、日本人たちに知ってもらえることができる。素晴らしい仕事だ。頑張ってください」



2011年東日本大震災後台湾への修学旅行が増加 (出典：文部科学省による高校生の国際交流調査)

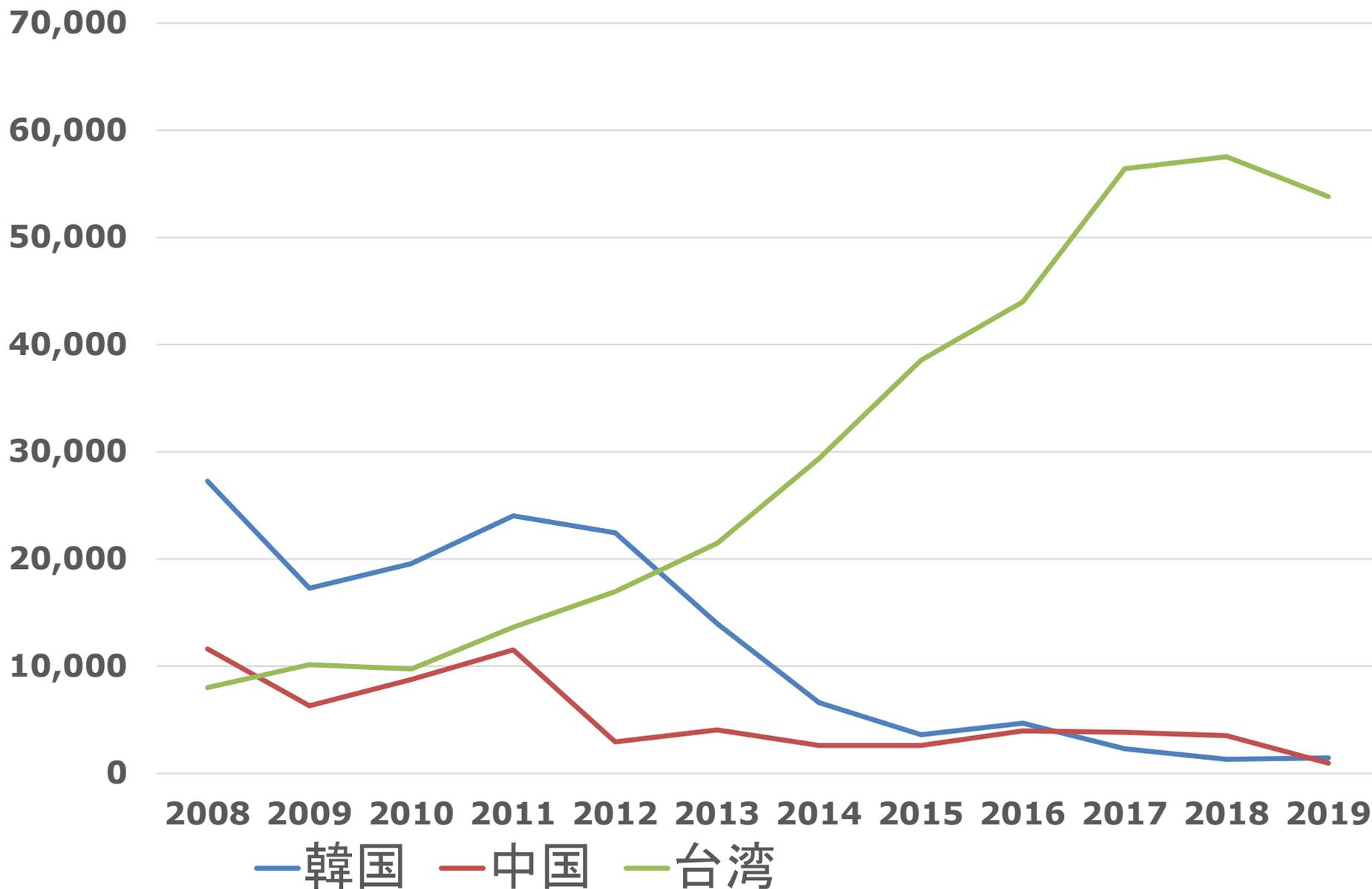
(2) 行き先国・地域別の生徒数の推移



	平成4年度	平成6年度	平成8年度	平成10年度	平成12年度	平成14年度	平成16年度	平成18年度	平成20年度	平成23年度	平成25年度	平成27年度
アメリカ	16,150	16,987	18,955	20,017	26,738	20,640	23,333	28,754	26,752	26,576	35,168	38,453
台湾	5,450	2,931	2,641	2,644	2,225	1,903	1,108	3,622	8,024	12,762	20,829	35,775
シンガポール	841	1,231	5,241	12,774	20,946	20,867	12,812	20,541	24,883	18,977	23,571	23,034
オーストラリア	2,309	7,906	14,239	17,642	22,769	26,114	34,125	38,990	29,662	21,557	19,755	20,485
マレーシア	734	518	2,561	7,267	16,643	12,673	11,637	13,636	22,857	15,695	20,614	13,945
その他	53,848	67,099	87,032	101,094	107,650	100,789	80,150	72,780	67,755	55,852	48,731	33,237
計	79,332	96,672	130,669	161,438	196,971	182,986	163,165	178,323	179,933	151,419	168,668	164,929

海外修学旅行人数推移（韓国、中国、台湾）

出典：全国修学旅行研究協会調査 禁無断転載・複写



修学旅行復活に向けた韓国政府の取り組み

2023年 韓国への修学旅行50周年
前大統領の肝いりで、**23校**の教員を
ソウルへ招待し、セミナーとFAMを実施→**5校実施**

青少年交流、中でも修学旅行は政治・
経済・社会的な波及効果が大きく、外交面でも注目
される。中国でも王毅外相が
熱心。

日韓青少年交流の復活でなく創造を！

- 旅行費用（旅費上限や、保護者の過重負担への配慮）
 - ☞ 公立の予算内に収まる訪問国
- 学校交流の実施
 - ☞ 交流を中止しないこと
 - 受入校に対する観光当局による交流経費の補助
- 国際理解教育計画づくり
 - ☞ 韓流交流をベースにSDGsのプログラムを加味
 - スマホを駆使したZ世代の若者同士の交流
- 保護者の同意☞ 両国の好感度は改善中

- 政情が安定し、受入体制の整った国・地域の選定
 - ☞ 政治関係の改善
- 旅行会社のノウハウの再構築・マニュアルの作成（食事のアレルギー対応）など手間がかかる

学校行事のため学校訪問への支援を提案

学校訪問プログラム

校内見学、合同授業、英語授業

スポーツ交流（バドミントン、バスケット、野球、サッカー）

音楽交流（吹奏楽、合唱、ダンス）

文化交流（囲碁将棋、アニメ、料理教室）

⇒課題：授業の調整、経費（歓迎幕、資料の用意）の負担
を提案→ソウル市は検討

台湾の場合（受け入れ経費の補助）

まとめ：

異文化理解の第一歩として重要な海外修学旅行

家族との海外旅行

関心・興味

👉 海外修学旅行・研修 異文化理解

👉 大学での留学・研修 語学力強化 👉 グローバル人材

2年先、3年先の種まき

- ・受け入れ先国・地域の施策を活用👉 支援、先生の研修
- ・台湾、韓国、シンガポール、ハワイ、ベトナム他
- ・航空会社の支援
- ・仕組み作りの働きかけ（自治体、学校）
姉妹校提携の提案：少人数の交流から研修、修学旅行
- ・理解ある先生をサポートする
- ・観光庁、文科省への陳情